

# 人生を豊かに生きるための生涯学習をめざして

草羽 俊之

## ～集いの場あゆみにおける実践の到達点～

### 1. はじめに

「集いの場あゆみ」の生涯学習の取組は、学校卒業後に就労している人が、自立のために必要な知識やスキルの習得に向けた生涯学習として始まりました。

しかし、障害者が就労や生活の中で直面する問題は多様で、個に応じた支援が必要になります。つまり、就労・生活の困り事の解決や生きがいを作るための経験や実生活に結びついた支援と学びも生涯学習として捉えることが重要となります。

すなわち、人生を豊かに生きるためには、自立に役立つ実践的な学習と生きる喜びにつながる活動と共に楽しむ集団が必要であると考えました。

そのことを実現するために、障害者福祉サービスを活用した「集いの場あゆみ」の設立に取り組みました。以下その取組の経緯や現状について報告をします。

### 2. 生涯学習の取組に至るまでの経過

生涯学習支援に至るまでは、養護学校（現特別支援学校）を卒業後の余暇活動の場の保障をする青年教室や大学でのオープンカレッジ、そして自立を学びあう生涯学習講座の取組を行ってきました。これらの経験を活かして、生涯学習支援の場「集いの場あゆみ」の設立へとつながっていきました。

#### （1）こいこいクラブ（青年教室）の取組

筆者が養護学校教員だったときに、卒業生との忘年会で、休日は友達と遊ぶ機会がほとんどなく、一人ぼっちで過ごしていることが話題になりました。

「休日は仲間と遊びたい」「話をしたい」と溜まっていた思いが次々と出され、1992年7月に青年教室「こいこいクラブ」が結成されました。主には職場で孤立しがちな一般就労の人が参加しました。「こいこいクラブ」の由来は、カープの「鯉」、「恋」中身が「濃い」、みんな「来い」の意味が込められています。活動は当事者（本人）による運営や意思決定を尊重した運営をめざして、学生サポーター（ボランティア）と青年たちの代表によるミーティングで行事の内容について話し合いました。

行事はみかん狩り、野球観戦、ボウリング、カラオケ、一泊旅行などから、更には和太鼓やダンス、スポーツ、そしてワープロ操作や運転免許取得の勉強へと行事や文化活動、学習の領域へと発展していきました。

一般就労をしている人たちは、職場で孤立をするケースが多く、休日にもリフレッシュする場もなく、仲間と関わる場も少ないのが現状です。

「こいこいクラブ」は、自分たちが主人公になれる活動として夢や願いが実現できる場として約20年余の活動を行ってきました。しかし、運営体制やボランティア確保の困難さにより、活動維持が困難になり、中断することになりました。

「こいこいクラブ」の実践の中で、行事のみならず学習活動に発展をしていったことや本人の意思決定を尊重した当事者運営の経験は、後の生涯学習を実践していく上での原点になりました。

## (2) NPO 法人「エス・アイ・エヌ」による生涯学習の事業化に向けた実践

余暇活動や学習活動の安定した継続的な運営をめざし、公的財源による運営基盤の構築と体制作り及び中身作りを進めるために、NPO 法人による運営を模索しました。これまでの経験から、余暇活動と学習活動と相談援助の取り組みを一体化して展開する必要を感じていました。そこで、大学のオープンカレッジや専攻科などの先行的な実践や研究を参考にして、NPO 法人と大学の連携による「オープンカレッジ」や「生涯学習講座」の取組を始めました。

### ① 「レッツ・オープンカレッジ | N広島国際大学」の実践

2004年10月に広島国際大学医療福祉学科との共催で知的障害者を対象とした「レッツ・オープンカレッジ | N広島国際大学」を開催しました。

講座内容は、暮らしに役立つ法律や制度などの「学びの講座」と生活を楽しむ「レッツ・エンジョイ・カルチャー講座」の2本立てで行いました。

「学びの講座」では、大学教員や医療・福祉などの専門家による『私たちを守る法律と制度』『働く保障と権利』『障害基礎年金』『成年後見制度』『健康管理』等の講座に取り組みました。

「レッツ・エンジョイ・カルチャー」では、大学教員や専門のインストラクター、学生ボランティアによる『大学祭へ行こう』『ダンス』『クリスマスパーティー』『ミュージック』『スポーツ』の活動に取り組みました。

医療・福祉系の強みをもつ大学の利点や環境を生かし、学生が支援者となり、一緒に専門的な学習を学んだり、キャンパスライフを楽しむことができたりしました。日常と違う環境での刺激を楽しむことができました。しかし、この取組を継続していくためには、大学のバックアップ体制や大学教員の積極的な関与が条件になり、単発的な活動に終わりました。

### ② 「自立を学び合う生涯学習講座」の実践

2011年10月～2012年3月にかけて、WAM助成金（社会福祉振興助成事業）を活用した生涯学習講座のモデル事業にも取り組みました。このときの講座のテキストをまとめたのが「自立を学びあう生涯学習講座」です。

講師には、講座のテーマに即した専門家（大学教員、看護師、ビジネスマナー講師、社会福祉士など）を招いて、知的障害のある人にも分かりやすい興味もてるような教材の作成をしてもらいました。また、グループワークや演習などの集団を生かした講義も行われました。この講座のプログラムは、後の生涯

学習講座の取組に反映されました

【自立を学びあう生涯学習講座の目次】

- 第1回『コンピューターの使い方』
- 第2回『障害者の福祉制度とサービス利用』
- 第3回『余暇に楽しい活動の計画を立てる』
- 第4回『社会生活とマナーとエチケット』
- 第5回『健康で豊かな食生活』
- 第6回『経済生活について～上手な家計と貯蓄～』
- 第7回『健康生活と医療』
- 第8回『自立について』

(3) 生涯学習講座の実践による成果と課題

《成果》

- ① 講座で活用したテキストをまとめ、本人、講師、支援者が活用できる自分らしく豊かに生きるための「自立を学びあう生涯学習」のテキスト集の作成。
- ② 学習プログラムを実施するための専門家や支援者の協力や関係機関との連携したネットワークの構築。
- ③ 就労や生活の中で実感する課題やニーズによる学びの必要性。

《課題》

- ① 参加者が継続的に利用できる事業化と地域で活動を普遍化することが重要。  
(安定した運営財源や人的体制の確保が必要)
- ② 参加者が学びやすい活動時間や利用しやすい場所(拠点)での常設化が必要。
- ③ 参加者のニーズに応じた多様なプログラムや学びの講座以外にも地域生活の中で余暇活動としての楽しい集団的な活動も必要。
- ④ 講座での学習を生かした生活の困り事やニーズに応じて、相談や援助による解決を図ったり、福祉サービスにつなげたりすることが必要。

3. 「集いの場あゆみ」の設立へ

～生涯学習の事業化とニーズに沿った活動プログラム～

(1) 「集いの場あゆみ」の事業概要

NPO 法人エス・アイ・エヌでは、これまでの生涯学習や青年教室の実践経験を生かして、継続可能な事業形態により実践の普及をめざすために、2015年7月、広島市地域活動支援センターⅡ型事業を活用した「集いの場あゆみ」を設立し、2016年9月から就労している知的障害者の生涯学習支援の場として本格的な運営を行いました。

### 《広島市地域活動支援センターⅡ型事業とは》

この制度は広島市の障害者福祉サービスで、事業目的を「機能訓練、社会適応訓練等、自立と生きがいを高めるための事業」としており、生涯学習の内容と共通する部分が多くある。利用人数や利用日数は上限設定のみで、開催の曜日には制約がないため生涯学習支援には適していると考えました。

#### (2) 「集いの場あゆみ」利用者の実態（2019年1月現在）

利用登録者数は29人で、月の平均延べ利用者数は105人前後です。男性23人、女性6人で、一般就労は23人、就労継続支援などの障害者福祉サービス事業所等が4人です。一般就労の手取り収入は、月10万円以内が15人、10万円以上が9人です。利用者の年齢構成は、30歳未満は12人、30歳代は8人、40歳代は9人です。

また生活については、グループホーム利用者3人、一人暮らしが3人です。その他の利用者は家族と暮らしています。利用者の家族・家庭や経済的な状況は、片親家庭、生活保護や年金世帯、保護者に障害があるなど、様々な困難さを複数抱えている人も多いのが現状です。

障害の状況は、全員が療育手帳の保持者ですが、精神保健福祉手帳の保持者や発達障害の診断を受けた人もいます。

また、「集いの場あゆみ」を利用するまで、障害者福祉サービスを利用した人は20%程度で、ほとんどの人は障害者福祉サービス利用の経験がありませんでした。

#### (3) 活動内容

「集いの場あゆみ」は、月～金曜日（以下ウィークデイ利用とする）と日曜日の利用ではプログラムが異なります。

日曜日に休日の人が多いので（15人前後）講座形式の学習や文化活動、そして行事的な活動を主な内容として行っています。

ウィークデイの利用者は、平日が休日になるスーパーなどに勤める職種の人です。1日平均で2～5人程度です。その日の利用者は様々ですが、同じ趣味、志向を持つ者同士が活動を行ったり、グループ活動という楽しく過ごす時間があったりします。他にも利用者の希望やイベント情報などからメニューを考えます。

## 4. 生涯学習支援と余暇活動の実践

### (1) 平日（ウィークデイ）のプログラムの一例（10時～15時）

#### ○ グループ活動

利用者の希望を聞きながら、活動内容を組み立てます。室内では「アート制作」「カラオケカフェ」「調理（わが家食堂）」、体育館、公園グラウンドで行う

「軽スポーツ」、外出では社会見学や展覧会などの鑑賞や見学をします。

例えば「美術館」「水族館」「映画鑑賞」「展示会」「社会的施設（郷土資料館、健康科学館、プラネタリウム等）」が見学先です。

○ 個別活動

インターネット（タブレット）、もの書き（絵手紙、書等）、もの作り（手芸）等、自分の関心や趣味としてやりたいことを行います。

(2) 日曜日の生涯学習講座と余暇活動の取組（2018年度）

① 専門の講師による学びと文化活動の講座

【学びの講座】

「自分を守る健康生活」「経済生活」「就労生活」「健康的な食生活」等

【文化活動】

「カープの紙芝居」「音楽・ダンス」「ヨガ」等

③ 利用者のアンケートから行事計画を立てる余暇活動

【娯楽・レクリエーション】

「マリホ水族館」「森林公園ハイキング」「夏祭り」「ハロウィン祭」

「焼き肉大会」「ボウリング」「忘年会」

平日（10:00～15:00）		日曜日（10:00～15:00）
○グループ活動（一例）		○学びの講座・文化的講座・行事
月	・スポーツ（体育館）	○学びの講座 ・健康生活 ・食生活 ・経済生活 ・就労生活 等 ○文化的な講座 ・音楽とダンス ・ヨガ ・カープ紙芝居 等 ○行事 ・お花見 ・夏祭り ・クリスマス会 等
火	・調理・わが家食堂	
水	・アート制作	
木	・買い物	
金	・外出 （美術館や映画鑑賞等）	
○午後からは個別、少人数グループで活動 例） お茶、談話、ゲーム、カラオケ、絵手紙、パソコン 等		

## 5. 「集いの場あゆみ」の実践の到達点

(1) 安定した継続的な運営

生涯学習支援を障害者福祉サービス事業で行うことは、安定した運営と継続的な支援が可能になり、利用者を支える拠点として確立することができました。

(2) 学びへの要求と主体性

本人の生活に裏打ちされた問題意識が学びを必要とする要求を生み出しています。また、集団の中でお互いの経験を学びあう姿が印象的です。学ぼうとす

る意欲や主体性は、このようなことが背景になっています。

### (3) 人生を豊かに生きる支援

サークル活動は、人生の楽しみ方や生きがい作りを大切にした取組です。その人の持ち味や自分らしさを引き出すことにつながっています。生涯学習支援が人生を豊かに生きることにつながり、さらに共感できる友達との出会いにもなっています。

### (4) 活動の広がりネットワーク

生涯学習講座を支えてくれるのは、専門的な講師陣のネットワークです。その道のプロの講師が障害に配慮した教材作りや支援を行ってくれます。

また、余暇活動を行っている他団体との連携や参加により、人との関係を広げています。そして「集いの場あゆみ」の地域にある男女共同参画推進センター（ゆいぽーと）の交流会や広島市中心身障害者福祉センターのスポーツ大会にも参加し、地域の社会資源の活用も行っています。

### (5) 相談や援助から共に解決して学ぶ

利用者には生活から就労までの幅広い困り事や悩み相談があります。内容は生活情報や諸手続の対応方法、障害年金の手続き、障害者福祉サービス利用の相談から行政手続きに関する実務的な援助に至る場合もあります。実際に生活での困り事や不便さを本人と支援者が一緒に解決する経験も学びにつながっています。そして就労や生活の支援機関やその担当者につないでいくことも大切な取組になっています。ときには関係機関との連携や協同して問題解決するまでの過程を支えることも必要になります。

### (6) 生活や就労の場で活用できる学習プログラム

本人が職場や生活場面で活用できる知識やスキルを学べる内容が大切となります。実際に困っている内容と場所に即して活用できる知識やスキルを身に付けることも大切になっています。そのためには、生涯学習は、その都度、就労や生活の中で起きる様々な問題やニーズの把握をして、解決に導く学びのプログラムの作成が必要です。相談支援と学習プログラムの一体化が本人たちの安全や安心の基盤となりつつあります。

## 生涯学習を利用者の声から学ぶ

### 1. 利用者の言葉や姿から学んだこと

サークル活動を始めてから利用者の変化に気付くことがあります。アート制作に関心の高いKさんは、話し言葉や書き言葉も苦手ですが、アート制作へ興味を持ち始めてからは、美術館に行っても、最初は展示物の前をスタスタと素通りしていましたが、最近は立ち止まっては気になった作品をじっと見ていることもあります。

また、アート制作に役立ちそうなお菓子の包み紙を大切にしておくなど、物や色のデザインなどに関心が高まっています。そして友達と一緒に活動する楽しさを覚え、会話も増えてきました。

利用者の中には1日3食とも弁当を食べたり、一人でご飯を食べたりする人もいます。そのような中で、集いの場あゆみでは利用者と一緒に調理した温かいご飯を美味しく、楽しく会話をしながら食べるのが御馳走になります。

「集いの場あゆみ」の利用者がよく口にする言葉に、以来（いらい）があります。体育館でのスポーツは高等部以来、映画鑑賞は小学校の体育館で見て以来、自分で調理をしたのは学校の調理実習以来、美術館は学校の校外学習以来、友達ができたのは学校以来、家と職場以外の所に来たのは就職して以来、数え切れないほどの以来を聞きました。学校を卒業すると、就労場所と家庭以外の場所とは遮断され、経験の機会や友達との出会いや交流も限られてきます。

「集いの場あゆみ」の取組を通して感じることは、一人一人の思いや願いを引き出し、やりがいのある活動を見つけ、共に楽しめる仲間との出会いが生まれています。そうした中で、改めて自分らしさに気付いていくのではないかと感じています。

日曜日の「学びの講座」では、グループワークでお互いが意見をぶつけ合ったり、自分の主張を譲らなかつたりする場面も見られます。厳しい労働環境に耐えて、決して楽ではない生活環境の中でもたくましく生きている自信なのか、生涯学習の場では、自分の考えや意見を自由に堂々と発表をします。

一方では、年齢や経験の違う仲間からの言葉に参考になる知恵やアイデアをもらうこともあります。そして講師も同じように、利用者の学びへの真摯な姿や活動へ参加する表情の豊かさに学ぶことが多いと言われています。

利用者それぞれの生活実態や経験、年齢の違いによる願いや思いは様々です。つまり、生涯学習による学びの意味や深さを感じると同時に、学びあうことの大切さを感じます。

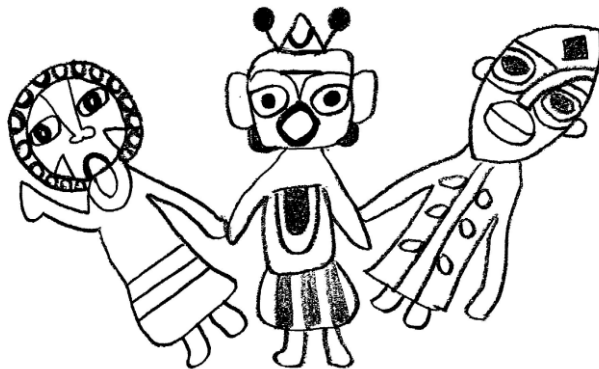
## 2. 利用者の声や感想から

### 《アート制作の紹介》

ぼくはアート制作を楽しみにしているKです。毎月のあゆみの壁画アートを作ります。10月は「おばけかぼちゃ」11月は「落ち葉ひろい」12月は「クリスマス」などを作りました。

ぼくが一番よくできたと思った作品は8月の「水族館」です。カニと魚を描いて、クレヨンで色を塗りました。水そうの水の色は水族館のときのことを思いだして、絵の具をまぜて作りました。まぜると、とってもきれいな色ができて嬉しかったです。岩も新聞紙を丸めて本物の岩のように作りました。みんなにも協力してもらってアートの作品を作るときはとても楽しいです。美術館に行って、いろいろな作品や色の使い方を見るのも楽しいです。これからもたくさん作品を作っていきたいです。よかったら僕たちの作品を見に来てください。

\*テキストの表紙の写真はアート制作で作った春夏秋冬の作品です。





### 《カラオケカフェの紹介》

ぼくは、カラオケカフェのマスターのNです。ぼくの役割です。

- ① カラオケのセッティングをします。
- ② みんなから自分の歌いたい曲を紙に書いてもらいぼくが集めます。
- ③ リクエスト曲をカラオケの機械に入力して、ぼくが進行役をします。
- ④ みんなにカフェメニューから、おやつやドリンクサービスの注文を取り、ぼくが作ります。
- ⑤ カラオケを歌い終わって最高点が出たらみんなでコメントを楽しみにします。
- ⑥ みんなが2曲か3曲か歌ったらぼくが最後に歌います。
- ⑦ カラオケセットの後片づけまでをぼくがします。
- ⑧ カラオケにない最近の曲を希望する人もいますので、ぼくがアンケートをとって新曲を買う準備をします。



### 《わが家食堂の紹介》

あゆみでは「わが家食堂」の時に、作りたい人がシェフになって、自分の得意料理や職員さんとレシピを考えた料理をみんなに食べてもらう取組があります。あゆみの仲間にも手伝ってもらいます。私がシェフになったときに好評だった山口県の名物の瓦そばセットで作った料理を紹介します。瓦の代わりにホットプレートを使い、めんを炒め味付けをして牛肉、きんし卵をのせ、めんがパリパリになるまで待ちます。食べる前に紅しょうが、ねぎ、レモンをしぼります。

最後に韓国のりをパラパラッとかけてふぞくの汁で食べます。あゆみでは、みんながおいしいと言って食べてくれるので作りがいがあります。

でも、自分のやり方で作るのは簡単ですが、友達と一緒に協力して作るのは難しいです。私はイライラしてしまって手伝ってくれる友達にきつく言って傷つけることもありました。

みんなで楽しく食べるお昼ごはんは、  
作る時も楽しく作ることだと思いました。



### 《もの書きの紹介》

ぼくは松風天耕といいます。この名前はペンネームです。ペンネームができたか説明をします。

ぼくは、今まで中国新聞の「天風録」というコラムを毎日欠かさず書写してました。

最初は、あゆみの平日の午後に、「天風録」からぼくが気になった出来事や季節の話題、スポーツ記事をぼくの解説付きでみんなに紹介をしました。そのうちに自分のコラムとして自ら考えた「天耕録」を書くことになりました。「天風録」とぼくの名前の字を組み合わせてペンネームやコラム名が決まりました。

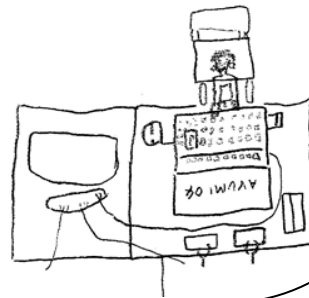
「天耕録」は美術館に行ったり、生涯学習に参加したりして感じたことをまとめています。「天耕録」を書くために生活の中でネタを探そうと増えました。また、インターネットをつかってウィキペディアで調べて記事の内容を深めています。

最近では、集いの場あゆみの広報誌、あゆみレターの執筆担当もしています。みんなからは編集長と言われ、ちょっと嬉しいです。メモを片手にいろいろな取材をするようになり、それをパソコンで打ちます。

ルビも打てるようになりました。

もうすぐ50歳になりますが、

新しい生きがいを見つけることができました。

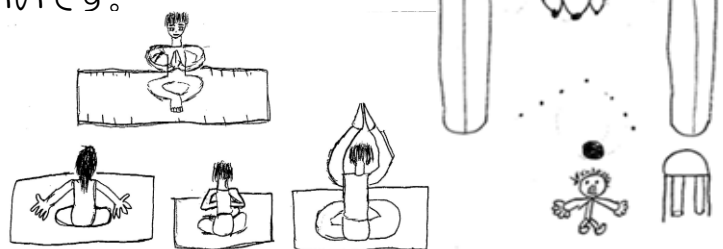


### 《軽スポーツの紹介》

ぼくはスポーツ好きの仲間と一緒に、あゆみの近くの体育館でミニテニスやバドミントンをします。あゆみの仲間や他の団体の仲間と一緒に福祉センターの大会に出たりします。スポーツは一人でやってもおもしろくありません。

今まであまりスポーツをやったことのない人も参加するようになりスポーツを楽しむ人が増えているのでうれしいです。

また、健康のために講座のヨガで習ったことも毎日、家でできればいいです。



### 《私（Kさん）にとってのあゆみ》

あゆみに行く日が私の「わろてんか」（連続ドラマ）です。

私はスーパーに勤めています。スーパーでは人間関係に悩んでいました。家とスーパーとの往復だった私に、元の担任の先生に声を掛けてもらってあゆみに行くようになりました。嬉しかったです。休日の日にあゆみに行っては話を聞いてもらって楽しく過ごしています。そして始めて友だちもできて良かったです。私のまわりには家族と職場のおばちゃんしかいませんでしたが、あゆみに行くといろんな話ができます。私の大好きなワイドショーのネタ話やNHKの連ドラ情報を話すと、みんなが大笑いしてくれます。一番すっきりするのは職場のグチを言うときです。そこでまたみんなで笑います。私の話はみんなを笑顔にする「わろてんか」だと言ってくれます。

もう一つ「笑い」ができるのはゲームでUNOをするときです。

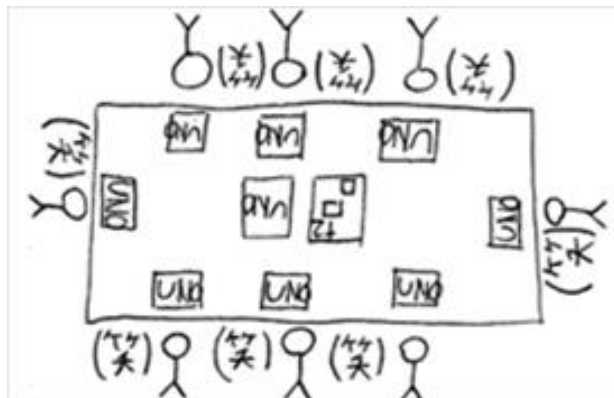
UNOが、あゆみのブームになっています。

友だちがいないとゲームはできません。

あゆみで初めてお話を、

楽しい活動をする

友だちができました。



## 《生涯学習講座での学びの講座から実践の一例》

### 生涯学習講座「健康的な生活を送るために」

講師は看護師さんで、講座のテーマは「心の健康と体の健康」です。

#### ○ テキストの内容（以下講師の言葉も交えて解説）

##### ★「ストレスについて」おすすめのストレス発散方法

①体を動かす。②今の気持ちを書いてみる。③深呼吸を繰り返してリラックスをする。④なりたい自分に目を向ける。⑤音楽を聴いたり歌ったりする。⑥笑ってみる。⑦心と体はつながっている。ストレスがたまっているなど感じたら、できるだけ早く1人で考えないで友だちや家族に話してみる。

##### ★「インフルエンザについて」

①手洗いうがいをする。②部屋の空気を入れかえ加湿する。③栄養・睡眠に気をつける。④せきエチケット（マスクの着用）に心がける。

##### ★「健康手帳の利用について」

自分の身体状況や健康の状況を記録した手帳を活用する。講座の中で身長、体重、体温、血圧などを計測した。講座のときに毎回計測すると変化が分かって自分の体調がわかる。

##### ★「講師の話」

「ストレスの話」では、出席者の一人一人がどんなときにストレスを感じるのか」やどのようにストレスを解消しているのか」を出し合いストレスの解消方法をみんなで考える。

ストレスの原因が多かったのは①仕事が忙しい。②上司や同僚との人間関係がよくない。③周囲の人との人間関係がよくない。などでした。解消方法は個々で様々で「音楽を聴く」「カラオケで歌う」「歩いたりする運動」「食べる」「寝る」「あゆみで話す」「自分の好きな電車を見に行く」などがありました。中には「ストレスがたまって爆発するとこんな顔になる」と自分が想像する表情の絵を3段階に分けて描いて、自分のストレスがたまっていく過程を説明する人もいた。

また、病院での診療の受け方や健康手帳の使い方の説明では、看護師さんが医師役や職員が患者役になったロールプレイを見て、言動の仕方を本人も実演を行った。

#### 『講座の利用者アンケートから』

- ・インフルエンザにかからないために手洗いやうがいをしっかりすることが分かった。

- ストレスになったときに、自分以外の人はいろんなことをしてリフレッシュしているんだと思った。
- 血圧をはかったり、健康手帳を見せたりすることで、お医者さんに分かりやすくすることが分かった。今度から病院に健康手帳をもっていこうと思う。
- ストレスをためないようにするには自分の趣味をもつことが大切かなと思った。